

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表日	2024年3月31日	事業所名	ひばりキッズジュニア行橋こうめ
-----	------------	------	-----------------

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>				
	2 職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			多機能での運営により、応援体制は充実している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<input type="radio"/>				
業務 改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>			日々の業務の中での困り事等を共有し、改善していく為の対策を練り、グループ全体で発表しあい、より良い業務に繋げていっている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>			保護者向けの評価表にあったコメントについては、職員間でどうしたら改善出来るか、もっと良いものに出来るかを話し合い、形にしていくようにしている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>				公開していることを保護者の皆様等に、広くお知らせしていくこと。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			<input type="radio"/>		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>			日々の支援の中で対応に困った場面等があれば直ぐに職員間で共有し、助言を貰える様にしている。 また、専門職からの助言が直ぐに貰えるような体制も整っている。	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			各クラスで児童の担当者を割り振りし、適宜アセスメントや支援計画の見直し等を行う様な仕組み作りにも努めている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>			標準化されたアセスメントツールを使用し、評価の仕方や分析までを助言を受けられる体制となっている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>			毎月の活動プログラム（月案）をクラス内で在籍児童の特性を考慮しながら決めている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>			毎月の活動プログラム（月案）を活動が偏らない様に作成している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	<input type="radio"/>			平日出来る事、休日にできる事、長期休暇だから出来る事を職員間で考え支援している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			個別活動とグループ活動が同時に出来、刺激の排除も兼ねたバージョン等で区切り対応している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>			全体でのミーティングで情報共有をし、且つクラス内でも情報の共有をしながらリーダーや担当を決め支援をしている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>			送迎後の時間にその日の出来事について話をしている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>			週案に毎日の様子が記録できるようにしている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>			6カ月毎にモニタリングを行い計画の見直しを行っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	<input type="radio"/>			放課後等デイサービスはあくまでも療育であるという点を忘れず個々にあった適切な支援を心掛けている。		

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達支援管理責任者か管理者が参加する事が多いが、ケースによっては、専門職が参加する場合もある。	どの職員も知識を増やし、担当者会議等に参画しその子の療育的視点からの意見を発言出来る様になることが今後の課題であり、目標である。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			学校との連携については、送迎時の情報共有や下校時間のお知らせ、ケース会議の設定等で適宜行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			受入時に必ず主治医の指示書を頂く様にしている。また、受診の際には同行をする場合もある。	今後は医療情報の共有システムの活用も視野に検討を重ねていくことが必要。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			就学を検討する時期に就学先や在籍園との連携会議等を行い、児童の状況把握に努め、関係機関の方々にも来訪頂く様お声掛けしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			移行時には、放課後での様子をまとめたものを提供できる様にしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			センター等の取り組みや工夫点を参考にしたり、研修等があれば参加はしたいと思う。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		地域との繋がりを構築する様な取り組みがまだまだ出来ない。地域のお祭りに参加した程度。今後はどう地域と繋がっていくかを考えたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○			参加して他事業所の情報を得たり、党事業所の取り組みを話したり出来ている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時の短時間でも様子を共有し、場合によってはご本人を入れて面談を行う等、共通理解を図っている。	個別面談の機会を作る必要がある。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			定期的な個別面談等で助言を行うようにしている。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時は勿論だが、ご質問があった際にも丁寧に説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			主に管理者が児童発達支援管理責任者が対応することが多いが、相談内容によっては、専門職が対応することもある。	どの職員も知識を増やし、相談に応じられるようになることが今後の目標。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			父母の会の必要性は要検討。ご家族参加型のイベントを企画し、ご家族に参画して頂ける様な機会を作っていく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			直ぐにご家庭へ訪問させて頂き、経緯を説明するようにしている。直接お話しするようにしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			広報委員会を立ち上げ、毎月のおたよりを作成し配付する様にしている。	
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			活動内容等の見える化を図ったり、撮影した動画を見て頂く等している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		地域の皆さんを招待する様なイベント企画はまだやったことがないので、今後の検討課題とする。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			職員間では周知出来ている（赤ファイル）。	保護者への周知が課題。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年間で予定を組み、災害に備えた訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			グループ内で虐待防止委員会を立ち上げ研鑽に努めている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			現在、拘束の手段が必要な児童(送迎時)がいる為に、事前に保護者へは説明し、了承を得た。	個別支援計画への記載は今後の課題。該当児童への計画には直ぐに反映させたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			保護者と面談を行い、正確な情報を掴むようにしている。難しい場合は無理をせずお弁当持参で使用して頂く様お願いする。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			事故に繋がらない為の記録を残し、職員間で共有している。記録を確認した職員はサインを残す。	